

#35

地方公務員①
住民の声に応える



MC・リポーター
 廣村季生



今回から2回にわたり地方公務員の仕事についてお話を伺います。1回目は、地域の事務所でイベント運営や防災に取り組んでいる、東京都江戸川区の職員の樋口翔馬さんです。福岡県出身の樋口さんは、公務員を目指して東京の専門学校に進学、縁あって江戸川区役所に就職しました。初めは「こんな仕事もあるんだ」と驚いたという樋口さんですが、今では「地域の方とかかわるとても大切な仕事だ」と感じているそうです。そんな樋口さんに、地方公務員としての仕事のやりがいや魅力について伺います。

地方公務員の仕事とは

都道府県庁や市区町村の役場などで働き、地域の人々の生活や産業に密着した業務を行います。樋口さんの場合は、行政職として地域のイベントや防災の仕事をしていますが、それ以外にも、戸籍や住民票の管理、道路や公園の整備、学校や図書館の設置や運営、福祉・健康にかかわるサービス、産業の振興など、仕事の分野は実に多岐にわたります。多くの場合、数年ごとに違う部署に異動しながら、キャリアを積みます。

地方公務員には、行政職以外にも、土木・建築・農業などの技術職や、警察官や消防士などの公安職、看護師・保健師・司書などの専門職など、さまざまな仕事があります。また、勤務先が都道府県か市区町村かによっても、仕事の内容は異なります。

地方公務員として働くためには

志望する自治体の公務員試験を受けて合格する必要があります。募集している職種や、試験の内容や方法は、自治体によってさまざまなので、十分に調べたうえで準備をしてください。

このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。



地方公務員の樋口翔馬さんに聞きました！

廣村：早速なのですが、江戸川区ってどんな地域ですか？

樋口：はい、東京の最も東にある所で、千葉県に隣接をしています。人口は約70万人で、全国の市区町村でもかなり上位になってます。また子どもの医療費の助成制度など、子育て支援が充実していることで全国的にも有名です。さらに公園面積が東京23区内で第1位になってまして、水と緑に囲まれた自然豊かな地域になってます。

廣村：樋口さんはお仕事を始めてどれくらいになるんですか？

樋口：はい、3年目になります。

廣村：何という部署にいらっしゃるんでしょうか？

樋口：「小松川事務所地域サービス係」という部署になります。これはですね、区役所の本庁舎ではなくて小松川平井地区にある事務所です。わたくし含めて計7名で仕事をしております。

廣村：具体的には今どんなお仕事をされているんですか？

樋口：小松川平井地区は荒川沿いの地域なんですけれども、そちらで地域のイベントとか、ほかに地震や台風などの災害が起きた際に、地域で避難所を開設・運営していくために、避難所運営協議会の設立のサポートや会議を行っています。

廣村：地域のイベントや防災のお仕事…どんなことをするのか興味があります。今日は地方公務員の樋口さんにお仕事の内容を詳しく教えてください。よろしくお願いします。

樋口：よろしくお願いします。

イベントや防災活動を通して「地域力」を上げる！

廣村：樋口さんは地域のイベントを担当されていると伺いましたが、どんなイベントなんですか？

樋口：地域サービス係はですね、一年を通してイベントがあるんですけれども、中でも「ふるさとまつり」という小松川平井地区でいちばん大きなお祭りがあるんですね。それは40年以上前から行われているんですけれども、管内の幼稚園児がおみこしを担いだり、小学生が鼓笛隊パレードを行ったり、大人の方も民謡流しなどを踊ったりしています。お祭りには友好都市の山形県鶴岡市の方をお招きして、花笠音頭を踊ったりしています。小松川小学校を会場にしておりまして、ステージでは地元の人の出し物や、地域のさまざまな団体が模擬店を出したりしています。

廣村：楽しそうですね。お祭りに関して樋口さんはどんな役割をされているんですか？

樋口：準備の段階ではいろいろと会議がありますので、そちらの会議の資料作りだったり、昨年の反省を生かして改善案の提案等を行っています。また模擬店を出すので、保健所への事前の連絡、申請等を行っています。

廣村：やるのがたくさんありますね。

樋口：はい、ありますね。当日になると現場の模擬店の設営。ステージも含めテントの設営・撤収を行いまして、その際にはですね、私が江戸川区役所に入った年から始まったんですけ

れども、地域の方の中から、外国人の方や中高生からボランティアを募って準備を手伝っていただいています。準備に参加していただくことで、当日お祭りに来てくださいね……という、そういったところに目的をおいてボランティアを募っています。

廣村：若い人たちと地域の方がつながるっていうのはすてきですね。

樋口：やっぱりイベントが成功したときはとてもやりがいがある仕事です。

廣村：区役所の職員が地域のお祭りにかかわるのは、どんな意味があるんですか？

樋口：これはですね、江戸川区の強みでもある「地域力」の強さにとってもつながります。地域の人たちとつながりを深めることによって、会議のときに住民の方から意見が出やすくなったり、またこちら側の提案も聞いてもらいやすくなるっていうところにつながってきます。そのため、世間話でもいいのでしっかりとコミュニケーションを取るようになっています。区役所の中でも地域サービス係っていうのは、いちばん地域の方とかかわる、とても大切な部署になっていますね。

廣村：防災の仕事もされているそうですが、どんなことをされてるんですか？

樋口：地震や台風のときには、避難所を地域の方が主体になって開設・運営をしていただかなければいけないんです。そのための避難所運営協議会の設立をサポートするために会議等を開催しております。また避難所の場所の周知や、必要な物の準備の呼びかけを行うための、防災マグネットを作って配布しております。

廣村：マグネット？

樋口：えー冷蔵庫によく貼ってあるような……。

廣村：水道とかガス（の広告）でよくあるやつですよ。

樋口：そうですね。それをイメージして作りました。避難先がまずいちばん上を書いてあって、1人につき最低限必要な物、食料と水を最低3日分と毛布と室内履きですね、こういった物を持って行っていただくと、寝る場所の確保だったり、寒さをしのぐ防寒具にもなりますので、大事（な情報）になります。

廣村：分かりやすいですね。

樋口：特に災害のときは、避難所の運営をしていくにあたって、地域の方が主体になっていただくことがとても重要になってきます。それを支援するのが私たち江戸川区役所の職員の役割となっております。



地方公務員を目指し、縁あって江戸川区へ……

廣村：樋口さんが地方公務員になろうって考えたのはいつごろですか？

樋口：私、実は高校生まで福岡県に住んでいたんです。そのときに部活でバドミントンをやっていたんですけども、引退したときに同じ部活の友人が公務員を目指すって知ったんですね。それからちょっと自分も「公務員ってどんな仕事があるのかな？」って調べていったのがきっかけになりますね。もともとはスポーツをやっていたので、スポーツのインスト

ラクターになるうかなって考えていたんですけど、そうやって公務員のことを調べていくうちに、仕事のやりがいだとか、いろんな場面で自分の力を出せる（仕事だ）ってなったところで、やっぱり公務員のほうがよかったので、公務員を目指すようになりました。

廣村：なるほど。その後はどんな進路に進んだんですか？

樋口：東京の専門学校に進学をしました。それで、ちなみになんですけども、そのときから実は江戸川区に住んでまして……。

廣村：そうだったんですね。じゃあもう、そのころから江戸川区には縁があったんですね。

樋口：そうですね、何か縁があったんだと思います。それで、その専門学校には公務員の専門コースがありまして、そちらに進学して勉強を2年間して、警察や消防も含めていくつか受けて、合格した中に江戸川区があったので江戸川区に就職をしました。

廣村：江戸川区を選んだのはなぜですか？

樋口：こちらにも縁があったと思うんですけども、公務員の専門の学校だったので、いろんな公務員の職種から説明会の案内が来るんですね。その中で抽せん（受からないだろうな）って思って応募したところ、たまたま受かりまして、江戸川区の説明を聞いたときに、人口が多くて地域力が高いつつところにやっぱり魅力をととても感じました。それでまた自分が住んでいるっていうところもあって、「やっぱりここで働きたいな」って思って江戸川区にしました。また自分の地元の福岡県も、東京の中心街みたいに高層マンションやビルが多くはなくて住宅街がメインだったので、地元にも雰囲気が似てるなっていうところにも縁を感じて、江戸川区にしましたね。

廣村：そうだったんですね。

どんどん質問して仕事を覚えた

廣村：仕事を始めたころのことで、忘れられないことはありますか？

樋口：配属先が決まって初めての出勤の日ですね。たまたまイベントの翌日だったんですね。それで職場の係の方がみんなバタバタしていて、ちょっと大変な所に来ちゃったかな……って思ったのが印象にいちばん残ってますね。

廣村：その印象ってどう変わりましたか？

樋口：自分が実際に地域サービス係で働いてみて、一年を通してとても大変な所なんだな……ってというのは実際に体感できました。落ち着いたときはすごく優しい方々ばかりで、すごくサポートもしてくれたり、いろんなアドバイスもしてくれたりとか、すごくよい職場でした。

廣村：みんな忙しい中でどうやって仕事を覚えたんですか？

樋口：これもいろんな仕事に通じることだと思うんですけども、私は職場の先輩や上司も含めて、地域の方にも会議のときに直接「これはどうやったんですか」とか、全で一から十まで聞くようにしていました。忙しいときに聞かれると、「ちょっと嫌だ」っていう方もいらっしゃると思うんですけども、基本的には「聞かれたらすごく言いやすかった」「質問してくれてよかった」って、みなさんに言っていただけでしたね。

廣村：先輩だけじゃなくて、地域の方にも聞いたんですね。

樋口：そうですね、地域の方だからこそ知っていることもやっぱりあるので、そういったところも含めて聞くようにしていました。で、あとは一年の流れを記した書類がありますので、それを参考に仕事を進めて行きましたね。

廣村：そうなんですね。実際に地方公務員になってみて専門学校時代に想像していたことと違うことってありましたか？

樋口：まず、自分がいる「地域サービス係」という部署があることに驚きました。そういったイベントは、私のイメージとしては地域が独自でやってるものだと思っていたんですけども、いざ配属されてみるといろんな地域のイベントの企画、運営などを地域の人と話し合いながら協力してやってるっていうところが、こんな仕事があるんだっていうことで驚きましたね。

廣村：私も今日、話を聞いていて驚くことがいっぱいありました。お仕事の中でご自分が気に入っている音ってありますか？

樋口：これはですね、イベントを開催しているときの音になります。ステージをやられてる方の音楽だったり、BGMだったりとか、あとは、模擬店の運営されている地域の方の声とか、来場者の笑い声だとか、楽しんでいる声を聞くと、「ああイベントをやってよかったなあ……成功してよかったなあ……」っていう、やりがいをととても感じられるので、イベント開催しているときの全ての音が気に入っています。

地方公務員のキャリア形成とは？

廣村：区役所のお仕事には他にどんなものがありますか？

樋口：はい。たくさんあるんですけども、代表的なもので言えばですね、戸籍関係の係だったり、国民年金や国民健康保険を扱う係、スポーツ関係の事業を扱っている係と、子育て関係の支援をしていく係。あとは税金ですね、課税・納税関係のお仕事をしている係であったり、江戸川区内の道路だったり敷地の担当をしている土木や技術職の方のなどの係があります。

廣村：ほんとにたくさんあるんですね。

樋口：はい。

廣村：樋口さんはイベントの部署からそういう所に移ることってあるんですか？

樋口：はい、もちろんあります。ジョブローテーションというシステムがありまして、これからいろいろな部署に行くこともあります。

廣村：ジョブローテーションって何ですか？

樋口：やっぱり一つ部署にいと慣れてしまっって、悪く言ってしまうと怠慢だったり癒着につながってしまうので、そういったことにつながらないようにするっていう部分と、あとはいろんな所（仕事）を経験して自分の力にしていくっていうのが目的



このページ掲載の文章・画像の無断転載を固く禁じます。

になりますね。

廣村：公務員の仕事をひと言で表すとどんなお仕事ですか？

樋口：これはですね、「全体の奉仕者」という言葉があるんですけども、これがいちばん当てはまるのかなと思います。これは自分のためや役所のためではなくて、地域住民の方のために働くということで、この言葉がいちばん合っているのかなと思います。

廣村：公務員っていう仕事のどんなところが大変で、どんなところにやりがいがありますか？

樋口：はい、やはり法律に基づいた仕事をするので制限が多くですね。周りからの注目度っていう観点ではとても高いです。なので、仕事のときだけではなくて休日も含めですね、日常生活でも自分が公務員なんだっていう意識を持っていなければならないところが、いちばん大変だと思います。しかし公務員ならではの（大切な）仕事が多くあります。そういった公務員でしかできない仕事をしていると、自分の仕事に誇りを持つことができ、さらに自分自身に自信が持てます。こういった部分がやっぱり公務員という仕事のやりがいだと私は思います。

廣村：公務員になりたいと思ってる高校生はどんな準備が必要ですか？

樋口：公務員っていうのは先ほども言ったように、さまざまな仕事があります。まずはどんな仕事があるのかを調べてみてください。調べていく中で自分にあった仕事、興味がある仕事が見つかると思います。そういった仕事が見つかったら、試験内容や受験区分を必ず確認して、勉強に取り組むようにしてください。受験先によっては筆記試験の出題傾向だったり、面接試験の方式が異なる場合がありますので、十分に調べたうえで勉強に取り組むようにしてください。

こんな江戸川区になってほしい……！

廣村：樋口さんは江戸川区がこれからどうなってほしいですか？

樋口：全国的に有名になってほしいなと思います。江戸川区は金魚の三大産地と言われるほど金魚が有名ですし、小松菜の発祥の地であるなど、江戸川区には多くの魅力があります。これをもっと全国的に発信して行って、全国どこに聞いても、江戸川区のことを知っているような、有名な地域になってほしいと思います。

廣村：そうになっていくといいですね。

樋口：はい、また住民の声に応えることができる江戸川区にもなってほしいと思います。江戸川区って地域力が強いことで有名なんですけれども、それでも地域の方からはいろいろなご意見をいただくんですね。そのご意見をしっかりと生かしていけるように、一から十まで応えていくのはちょっと難しい部分ではあるんですけども、その意見をしっかりと聞いて、少しでも対応していく姿勢があれば、住民の方ももっと要望を言いやすくなっていくのかなと思います。そういった関係性を作ることも地域力を上げていくという面ではとても大事になるので、そういった、地域の住民の声に応えることができるような江戸川区になってほしいと思います。

廣村：すてきですね。そういう所に私も住みたいです。

